

総務教育常任委員会資料

(令和4年12月2日)

【件名】

- ・鳥取県特別支援教育推進計画（仮称）の策定に係るパブリックコメントの実施について（特別支援教育課）・・・ 2
- ・国際バカロレアフォーラム 2022in 鳥取の開催について（高等学校課）・・・ 3
- ・購入した美術作品「ブリコの箱」の取扱い（案）と県民への説明について（博物館・美術館整備課）・・・ 4

教育委員会

鳥取県特別支援教育推進計画（仮称）の策定に係るパブリックコメントの実施について

令和4年12月2日
特別支援教育課

本県の障がいのある子どもの教育の更なる充実に向け、全県的、中長期的な視点に立って、今後の特別支援教育の在り方を明確に示し、計画的に推進していくために、県教育委員会として方向性や具体的な取組を示した「鳥取県特別支援教育推進計画（仮称）」を策定することとしました。

このたび、県民の皆さまからのご意見をいただくため、本計画（仮称）（案）に対するパブリックコメントを実施しています。

1 趣旨

特別支援学級に在籍する児童生徒数、高等学校で発達障がい等の診断を有する生徒数が増加するなど学校や社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、「誰一人取り残さない」教育を実現していくことが求められており、鳥取県教育審議会が令和4年2月に答申した「これからの時代における本県の特別支援教育の在り方について」の内容も踏まえ、特別支援教育を推進していくための計画を策定することとしたもの。

2 鳥取県特別支援教育推進計画（仮称）案の概要

（1）期間 令和5年度から令和9年度までの5年間

（2）構成

切れ目ない支援体制構築と特別支援教育の充実

- 1 幼稚園、認定こども園、保育所等における特別支援教育の充実
- 2 小学校、中学校、義務教育学校における特別支援教育の充実
- 3 高等学校における特別支援教育の充実

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「多様な学びの場」の整備や、幼児期から高等学校卒業まで切れ目ない指導・支援の充実を図る。

社会や幼児児童生徒の実態の変化に応じた今後の特別支援学校における教育の充実

- 1 特別支援学校における教育の充実
- 2 特別支援学校のセンター的機能による小・中学校等へのサポート体制の充実

特別支援学校における中長期的な施設整備の検討や、医療的ケアの支援体制、ICTの活用、卒業後の自立と社会参加に向けたふるさとキャリア教育、小・中学校等へのサポート体制の充実を図る。

特別支援教育に関する教職員の専門性向上と福祉・医療等の連携充実

- 1 全ての教職員における特別支援教育に関する指導力の向上
- 2 特別支援学校・特別支援学級等における専門性の向上
- 3 教育と福祉・医療等の連携の充実

全ての教職員における特別支援教育に関する基本的な知識・技能及び支援方法等、指導力の向上を図るとともに、卒業後の自立に向け、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を推進する。

社会に開かれた特別支援教育の推進

- 1 共生社会の実現に向けた理解啓発の推進
- 2 鳥取県手話言語条例に基づいた学校における手話言語の普及

障がいのある子どもとない子どもとの交流の一層の推進や、障がいのある児童生徒等の活躍・取組の情報発信、手話言語の普及等により、共生社会の実現を目指す。

3 パブリックコメントの概要

募集期間：令和4年11月29日（火）から12月19日（月）まで

閲覧方法：県教育委員会特別支援教育課のウェブページからダウンロードできます。

（<https://www.pref.tottori.lg.jp/120760.htm>）

応募方法：電子メール（tokubetusienkyoiku@pref.tottori.lg.jp）、県の電子申請サービス

応募フォーム、郵便又はファクシミリ、意見箱への投函、市町村役場窓口

結果公表：御意見への対応は、後日取りまとめてウェブページ等で公表予定

国際バカロレアフォーラム 2022 in 鳥取の開催について

令和4年12月2日
高等学校課

令和4年9月に倉吉東高等学校が山陰地方で初の国際バカロレア（IB）ディプロマ・プログラム（DP）の認定校となったことを踏まえて、鳥取県における国際バカロレア教育の導入を広く県内外に広めることを目的にフォーラムを開催しましたので、報告します。

- 1 名称 国際バカロレアフォーラム 2022 in 鳥取
- 2 日時 令和4年11月20日（日）13：30～15：40
- 3 会場 倉吉未来中心 大ホール（倉吉市駄経寺町212-5）
- 4 目的 令和4年9月に倉吉東高等学校に導入が決まった国際バカロレア教育を広く県内外に広めるとともに県民への理解促進を図る。
- 5 開催方法 ハイブリッド方式（来場＋オンライン配信）
当日、日本海テレビHPからWEB配信あり
- 6 日程
 - （1）開会行事
挨拶 鳥取県知事 平井伸治
祝辞 国際バカロレア機構日本DLDPプロジェクト責任者 アシシ・トリベティ氏
 - （2）パネルディスカッション
・高知県立高知国際中学校・高等学校 校長 高野和幸氏
・朝日塾中等教育学校 校長 杉本裕介氏
・灘中学校・灘高等学校 教諭 井上志音氏
 - （3）IB先進校による成果発表
・東京学芸大学附属国際中等教育学校
・高知県立高知国際中学校・高等学校
・セントジョセフ高等学校（シンガポール）
 - （4）鳥取県立倉吉東高等学校による発表 校長 福光浩 等
 - （5）閉会式
挨拶 鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹
- 7 参加者 国際バカロレア教育に関心を持つ生徒、保護者及び学校関係者、教育委員会等
来場者とWEB視聴者、合計約200人
- 8 成果及び今後の対応

パネルディスカッションにおける、日本における国際バカロレア（IB）教育導入の意義やIB教育導入後の自校の生徒の変容等の説明及び先進校の生徒によるIB教育での体験発表等により、IB教育による生徒の変容を大きく感じ取ることができ、IB教育の特徴や可能性を発信することができました。

今後の展開として、IB教育の考え方や学習方法等をIBスクールとなる倉吉東高等学校から他の高校にも広めていきます。

なお、国際バカロレアフォーラム2022in鳥取の開催の様子は、当面の間、高等学校課ホームページからアーカイブでご覧いただけます。



高等学校課ホームページ

購入した美術作品「プリロの箱」の取扱い(案)と県民への説明について

令和4年12月2日
博 物 館
美術館整備局美術館整備課

県立美術館の開館に向けて購入した美術作品「プリロの箱」の取扱い(案)及び今後の県民への説明・広報活動等について報告します。

1 「プリロの箱」の取扱い(案)

- (1) 今回購入した作品については、県立美術館開館後3年間を目途に、作品の価値や美術史的な意義を理解していただくため、開館記念展等による展示
 - ・「プリロ・コーナー」を特設し、他の収蔵作品や他館から借用した作品を比較する展覧会を開催するなど工夫
(例：「ウォーホルと辻晋堂」、「プリロとマリリン」)
- (2) 「アート・ラーニング・ラボ(A.L.L.)」機能充実として活用
 - ・「プリロの箱」に関する講演会、シンポジウムなどを開催して「アートを通じた学び」の一環として活用
 - ・対話型鑑賞の素材としての積極的な活用
 - ・教育的ワークショップの素材としての積極的な活用
(例：「プリロ・ボックスを作ってみよう」)
- (3) 作品を鑑賞した県民や来客者等からの投票など、作品に対する評価・反応を率直に聴取
- (4) 来館者の声や展示・鑑賞後の反応を踏まえ、今後の取扱いを再検討

2 県民への説明・広報活動等

- (1) 美術館学芸員キャラバンの実施
 - 県立美術館の目的やコンセプトと、それに連動する収集方針、さらに現代アート全般の魅力等を学芸員が中心となって県民に丁寧に説明(出前説明会等含む)
 - ・スライド等を活用した県立美術館、美術作品の紹介
 - ・対話型鑑賞の体験
 - ・教育的ワークショップ(例：「プリロ・ボックスを作ってみよう」)の実施
- (2) 県立美術館開館に向けた機運醸成のための広報活動等の実施
 - ・開館カウントダウンイベント
 - ・県立美術館開館に向けたネットワークづくりのための県民参画イベント
 - ・美術・ライフスタイル・観光メディア対象懇談会で県立美術館の存在認知、関心喚起
 - ・大型商業施設や各種イベント参加において、美術館PRブースを設置
 - ・地域団体等と連携した機運醸成イベントの実施
 - ・学校等からの要請に応じ、作品鑑賞や対話的学習の体験を実施
 - ・建設状況や開館後の企画展やイベントのPR、収集作品の紹介等開館に向けて情報発信